

日本英語英文学会 学会資料

(2015年10月1日現在)

(作成：編集委員長 野村 忠央)

1. 日本英語英文学会 現役員一覧 (任期：2015年4月1日～2017年3月31日)

(2015年3月11日改正・メーリングリスト総会決定、但し、名誉顧問および常任理事は非改選)

会 長：渋谷 和郎 (千葉工業大学)
副会長：野村 忠央 (前北海道教育大学)
事務局長：土居 峻 (金城学院大学非常勤)

名誉顧問：松永 巖 (和光大学名誉教授)
顧 問：鈴木 雅光 (東洋大学) 永谷万里雄 (青山学院大学非常勤)

〈理事会・評議員会・監事〉

常任理事：渋谷 和郎 (千葉工業大学) 鈴木 繁幸 (東京家政大学)
野村 忠央 (前北海道教育大学) 藤田 崇夫 (東洋大学非常勤)
松倉 信幸 (鈴鹿大学)

理 事：市島 清貴 (新潟経営大学) 岩本 典子 (東洋大学)
加賀 岳彦 (日本女子体育大学) 菅野 悟 (北海道教育大学旭川校)
女鹿 喜治 (桐生大学)

評議員：阿部 明子 (和光大学) 伊勢村定雄 (駒澤大学非常勤)
伊藤 達也 (首都大学東京非常勤) 勝山 裕之 (青山学院大学非常勤)
川崎 修一 (日本赤十字看護大学) 新堀 孝 (東洋大学非常勤)
土居 峻 (金城学院大学非常勤) 鴫崎 敏彦 (日本獣医生命科学大学)
本荘 忠大 (旭川工業高等専門学校)

監 事：川崎 修一 (日本赤十字看護大学)
中山 隆夫 (中央医療技術専門学校非常勤)

〈編集委員会〉

編集委員長：野村 忠央 (前北海道教育大学) 〈英語学〉
編集副委員長：伊藤 達也 (首都大学東京非常勤) 〈英語学〉
菅野 悟 (北海道教育大学旭川校) 〈英語学〉

女鹿 喜治 (桐生大学)〈英語学〉
編集委員：岩本 典子 (東洋大学)〈英語教育学〉
川崎 修一 (日本赤十字看護大学)〈英語学〉
渋谷 和郎 (千葉工業大学)〈英語教育学〉
鈴木 繁幸 (東京家政大学)〈英語教育学〉
土居 峻 (金城学院大学非常勤)〈英語学〉
内藤 麻緒 (聖マリアンナ医科大学)〈英米文学〉
本莊 忠大 (旭川工業高等専門学校)〈英米文学〉
松倉 信幸 (鈴鹿大学)〈英語学〉

〈大会運営委員会〉

大会運営委員長：松倉 信幸 (鈴鹿大学)〈英語学〉
大会運営委員：岩本 典子 (東洋大学)〈英語教育学〉
加賀 岳彦 (日本女子体育大学)〈英米文学〉
川崎 修一 (日本赤十字看護大学)〈英語学〉

〈広報委員会〉

広報委員長：土居 峻 (金城学院大学非常勤)
広報委員HP担当：佐藤 亮輔 (東北大学大学院生)

〈関東支部〉

支部長：鈴木 繁幸 (東京家政大学)
副支部長：勝山 裕之 (青山学院大学非常勤)
顧問：永谷万里雄 (青山学院大学非常勤)
支部幹事：伊藤 達也 (首都大学東京非常勤)

〈東海支部〉

支部長：横井 一之 (東海学園大学)
副支部長：土居 峻 (金城学院大学非常勤)
顧問：矢田 貞行 (東海学園大学)
支部幹事：長井みゆき (三重大学非常勤)

〈北海道支部〉

支部長：山口 和彦 (札幌医科大学)
副支部長：眞田 敬介 (札幌学院大学)
支部幹事：菅野 悟 (北海道教育大学旭川校)
支部大会運営委員：茨木正志郎 (北海道教育大学札幌校)

2. 歴代役員一覧（※支部役員は割愛）

(1) 歴代本部役員

八王子英文学研究会歴代役員（1990年度～2000年度）

1990年度 初代代表：松倉 信幸
1991年度～1994年度 第2代代表：山口 英男
1995年度 第3代会長：永谷万里雄
1996年度～2000年度 第3代会長：永谷万里雄 会計監査：中山 隆夫

日本英語英文学会歴代役員（2001年度～現在）

2001年度～2004年度 初代会長：鈴木 繁幸

副会長：永谷万里雄

幹事：尾関 麻美 松倉 信幸 吉田 宏予

監事：新堀 孝

2005年度 初代会長：鈴木 繁幸

副会長：藤田 崇夫

理事：永谷万里雄 吉田 宏予

評議員：石井菊次郎 木内 修 新堀 孝 新堀 司 松倉 信幸

監事：木内 修

2006年度 初代会長：鈴木 繁幸

副会長：藤田 崇夫 名誉顧問：岡田 春馬

理事：永谷万里雄 吉田 宏予

評議員：石井菊次郎 木内 修 新堀 孝 新堀 司 松倉 信幸

監事：木内 修

2007年度 第2代会長：藤田 崇夫

副会長：木内 修 名誉顧問：岡田 春馬

常任理事：鈴木 繁幸 永谷万里雄

理事：野村 忠央 松倉 信幸 吉田 宏予

評議員：石井菊次郎 渋谷 和郎 新堀 孝 谷澤 泰史

監事：石井菊次郎

2008年度 第2代会長：藤田 崇夫

副会長：木内 修 名誉顧問：植村 洋 松永 巖

常任理事：鈴木 繁幸 永谷万里雄

理事：野村 忠央 松倉 信幸 吉田 宏予

評議員：石井菊次郎 岩本 典子 渋谷 和郎 新堀 孝 谷澤 泰史

監事：石井菊次郎

2009年度 第2代会長：藤田 崇夫

副会長：鈴木 繁幸 名誉顧問：植村 洋 松永 巖

- 理事：永谷万里雄 野村 忠央 松倉 信幸
 評議員：石井菊次郎 岩本 典子 勝山 裕之 渋谷 和郎 谷澤 泰史
 監事：石井菊次郎
- 2010年度 第2代会長：藤田 崇夫
 副会長：鈴木 繁幸 名誉顧問：植村 洋 松永 巖
 理事：永谷万里雄 野村 忠央 松倉 信幸
 評議員：石井菊次郎 岩本 典子 勝山 裕之 渋谷 和郎 谷澤 泰史
 監事：長久保礼一
- 2011年度～2012年度 第2代会長：藤田 崇夫
 副会長：鈴木 繁幸 名誉顧問：松永 巖 顧問：鈴木 雅光
 理事：永谷万里雄 野村 忠央 松倉 信幸
 評議員：岩本 典子 奥井 裕 勝山 裕之 渋谷 和郎 長久保礼一
 矢田 貞行
 監事：市島 清貴 土居 峻
- 2013年度 第2代会長：藤田 崇夫
 副会長：鈴木 繁幸 事務局長：土居 峻
 名誉顧問：松永 巖 顧問：鈴木 雅光
 常任理事：鈴木 繁幸 永谷万里雄 松倉 信幸
 理事：渋谷 和郎 野村 忠央 藤田 崇夫
 評議員：伊藤 達也 岩本 典子 奥井 裕 勝山 裕之 菅野 悟
 土居 峻 新堀 孝
 監事：市島 清貴 川崎 修一
- 2014年度 第3代会長：渋谷 和郎
 副会長：野村 忠央 事務局長：土居 峻
 名誉顧問：松永 巖 顧問：鈴木 雅光 永谷万里雄
 常任理事：鈴木 繁幸 藤田 崇夫 松倉 信幸
 理事：渋谷 和郎 野村 忠央
 評議員：伊勢村定雄 市島 清貴 伊藤 達也 岩本 典子 奥井 裕
 加賀 岳彦 勝山 裕之 川崎 修一 菅野 悟 新堀 孝
 土居 峻 女鹿 喜治
 監事：市島 清貴 川崎 修一
- 2015年度 第3代会長：渋谷 和郎
 副会長：野村 忠央 事務局長：土居 峻
 名誉顧問：松永 巖 顧問：鈴木 雅光 永谷万里雄
 常任理事：渋谷 和郎 鈴木 繁幸 野村 忠央 藤田 崇夫 松倉 信幸
 理事：市島 清貴 岩本 典子 加賀 岳彦 菅野 悟 女鹿 喜治
 評議員：阿部 明子 伊勢村定雄 伊藤 達也 勝山 裕之 川崎 修一

新堀 孝 土居 峻 鷗崎 敏彦 本荘 忠大
監 事：川崎 修一 中山 隆夫

(2) 歴代編集委員

『八王子英文学論叢』 歴代編集委員 (1990年～2000年)

1990年 (第1号担当) 初代編集責任者 山口 英男
1991年 (第2号担当) 第2代編集責任者 中山 隆夫
1992年 (第3号担当) 第3代編集責任者 引地 俊彦
1993年 (第4号担当) 第4代編集責任者 永谷万里雄
1994年～1995年 (第5号・第6号担当) 第4代編集責任者 永谷万里雄
編集委員：鈴木 繁幸 高橋 富男 松倉 信幸 山口 英男
1996年～2000年 (第7号～第9号、『英米の言語と文学』(八王子英文学研究会10周年記念刊行物)担当) 第4代編集委員長 永谷万里雄
編集副委員長：鈴木 繁幸
編集委員：高橋 富男 中山 隆夫 松倉 信幸 山口 英男

『日本英語英文学』 歴代編集委員 (2001年～現在)

2001年～2004年 (第11号～第14号担当) 初代編集委員長 永谷万里雄
編集委員：尾関 麻美 木内 修 新堀 孝 新堀 司 吉田 宏子
2005年 (第15号担当) 初代編集委員長：永谷万里雄
編集副委員長：木内 修
編集委員：渋谷 和郎 新堀 孝 新堀 司 別府 結花
2006年 (第16号担当) 初代編集委員長：永谷万里雄
編集副委員長：木内 修
編集委員：渋谷 和郎 新堀 孝 新堀 司 野村 忠央 別府 結花
2007年 (第17号担当) 第2代編集委員長：木内 修
編集副委員長：野村 忠央 編集顧問：永谷万里雄
編集委員：岩本 典子 渋谷 和郎 新堀 孝 吉田 宏子
2008年 (第18号担当) 第2代編集委員長：木内 修
編集副委員長：野村 忠央 編集顧問：永谷万里雄
編集委員：伊勢村定雄 岩本 典子 渋谷 和郎 新堀 孝 吉田 宏子
2009年～2010年 (第19号、『英語と英語教育の眺望』(日本英語英文学会20周年記念刊行物)担当)
第3代編集委員長：松倉 信幸 編集副委員長：野村 忠央
編集顧問：永谷万里雄
編集委員：伊勢村定雄 岩本 典子 渋谷 和郎 鈴木 繁幸

2011年～2012年（第21号・第22号担当）

第3代編集委員長：松倉 信幸 編集副委員長：野村 忠央
編集顧問：永谷万里雄
編集委員：伊勢村定雄 伊藤 達也 岩本 典子 渋谷 和郎 鈴木 繁幸
土居 峻

2013年（第23号担当）

第4代編集委員長：野村 忠央 編集副委員長：伊藤 達也 菅野 悟
編集顧問：永谷万里雄 伊勢村定雄
編集委員：岩本 典子 渋谷 和郎 鈴木 繁幸 土居 峻 内藤 麻緒
松倉 信幸

2014年（第24号担当）

第4代編集委員長：野村 忠央 編集副委員長：伊藤 達也 菅野 悟
編集委員：岩本 典子 渋谷 和郎 鈴木 繁幸 土居 峻 内藤 麻緒
本莊 忠大 松倉 信幸 女鹿 喜治

2015年（『英語と文学、教育の視座』日本英語英文学会25周年記念刊行物）担当）

第4代編集委員長：野村 忠央
編集副委員長：伊藤 達也 菅野 悟 女鹿 喜治
編集委員：岩本 典子 川崎 修一 渋谷 和郎 鈴木 繁幸 土居 峻
内藤 麻緒 本莊 忠大 松倉 信幸

(3) 歴代大会運営委員長

2001年～2014年（第11回～第24回年次大会担当）

初代大会運営委員長 永谷万里雄

2015年（第25回年次大会担当） 第2代大会運営委員長 松倉 信幸

その他の歴代大会運営委員、開催校委員、開催校協力委員については「3. 年次大会記録」を参照のこと

(4) 歴代広報委員

2014年度 広報委員長 野村 忠央 広報委員（HP担当） 佐藤 亮輔

2015年度 広報委員長 土居 峻 広報委員（HP担当） 佐藤 亮輔

3. 年次大会記録（※肩書きは大会開催当時）

第12回年次大会

日時：2001年11月25日（日）

場所：亜細亜大学 1号館 第1会議室

大会運営委員長：永谷万里雄（東洋大学非常勤）

プログラム：

◆研究発表

- 「ratherの語彙意味論的考察」 木内 修（関東学院大学非常勤）
「大脳生理学で妥当と思われる日本人教師と学習者のための英語学習習得法の一提案」
石井菊次郎（東洋大学非常勤）
「ナサニエル・ホーソーンの『大志を抱く客』を読む」 新堀 孝（東洋大学非常勤）

第13回年次大会

日時：2003年3月8日（土）

場所：青山学院大学 総研ビル9F 15番会議室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

プログラム：

◆研究発表

- 「スタインバック生誕100周年を考える」 永谷万里雄（青山学院大学非常勤）
「albeitに見られる品詞変化」 藤田 崇夫（浜松学院大学）
「受動文におけるby句の意味機能」 松倉 信幸（鈴鹿国際大学）
「意義素と意味の弾性に関する論理意味論的考察」 木内 修（東洋大学非常勤）

第14回年次大会

日時：2004年3月13日（土）

場所：亜細亜大学 6号館（研究棟）2F 第8会議室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

プログラム：

◆研究発表

- 「LexicographyとProfessorshipの両立は可能か？」 藤田 崇夫（浜松学院大学）
「ノンバーバル・コミュニケーションとしての笑いの機能」 松倉 信幸（鈴鹿国際大学）
「同格相当語句の成立状況とその機能的効果」 木内 修（東洋大学非常勤）
「脳科学の観点からのShadowingおよびRead-and-Lookupによる授業の一提案」
石井菊次郎（亜細亜大学非常勤）

第15回年次大会

日時：2005年3月12日（土）

場所：亜細亜大学 6号館（研究館）2F 第6会議室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

プログラム：

◆研究発表

- 「和英辞書点検一様々な使用域の訳語を一」 藤田 崇夫（浜松学院大学）

「等位性の諸相：典型例とその拡張事例の共起的関係」

木内 修（東洋大学非常勤）

「英語学習における学習意欲の発達：日本人大学生の学習個人史の調査から」

渋谷 和郎（英国ケンブリッジ大学大学院生）

「憲法9条成立にいたる過程と語法研究」 谷澤 泰史（東海学園大学非常勤）

第16回年次大会

日時：2006年3月11日（土）

場所：和光大学 A棟4階 第2会議室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

開催校委員：野村 忠央（和光大学）

プログラム：

◆青山学院大学課程博士号第1号取得記念講演「仮定法現在の諸問題」

野村 忠央（和光大学）

◆研究発表

「認知言語学 方法的懐疑」

木内 修（東洋大学非常勤）

「感情のshould?あるいは仮定法のshould?: T. S. Eliot: ‘La Figlia Che Piange’の読みをめぐって」

植村 洋（和光大学）

「マイナーな見出し語にも光を一英和辞書点検一」 藤田 崇夫（浜松学院大学）

「学習英和辞典における感情を表す過去分詞形容詞の表記について」

松倉 信幸（鈴鹿国際大学）

「日英語の二重目的語構文」 勝山 裕之（青山学院大学非常勤）

「Shadowingは学習者の音声面の習得を可能にする」

石井菊次郎（亜細亜大学非常勤）

◆総会

第17回年次大会

日時：2007年3月10日（土）

場所：東京家政大学 120-7AB教室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

開催校委員：鈴木 繁幸（東京家政大学）

プログラム：

◆研究発表

総合司会：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

司会：仙土真由美（帝京大学大学院博士課程修了）

「憲法前文はなぜ宣言形式を仮定法現在と直説法に分けているのか」

谷澤 泰史（東海学園大学非常勤）

「英和辞典の統語情報とその理論的説明」 木内 修（東洋大学非常勤）

「仮定法諸用法の名称に関する問題点」 野村 忠央（和光大学）

「辞書における archaism の諸問題」 藤田 崇夫（浜松学院大学）

「自己評価は可能か？—大学生による英語自己評価について」

岩本 典子（慶応義塾大学非常勤）

「ブコウスキーの『町でいちばんの美女』」 永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

◆総会

第18回年次大会

日時：2008年3月8日（土）

場所：和光大学 A棟4階 第2会議室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

大会運営委員：仙土真由美（帝京大学大学院博士課程修了）

開催校委員：植村 洋 野村 忠央 松永 巖（和光大学）

プログラム：

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆研究発表

「現代英語における補部に生起する叙想法現在について」

長久保礼一（南山高等学校男子部・名古屋大学大学院生）

「日英語の代名詞比較」 伊藤 達也（首都大学東京非常勤）

「思考動詞のLCSについて」 鈴木 泉子（津田塾大学非常勤）

「“government of the people”の解釈について」 野村 忠央（和光大学）

「いわゆる「斜格主語」について」 勝山 裕之（青山学院大学非常勤）

「Gem of the Ocean (August Wilson 作、2003年) の Aunt Ester 像の変遷と August Wilson の視点について」 伊勢村定雄（駒澤大学非常勤）

◆閉会の辞 副会長 木内 修（東洋大学非常勤）

◆総会

第1回東海支部大会

日時：2008年6月14日（土）

場所：南山中学・高等学校（男子部）高校校舎2階会議室

東海支部大会運営委員：長久保礼一（南山中学・高等学校）

プログラム：

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆研究発表

「『オックスフォード英語辞典』における日本語借用語」

土居 峻（名古屋大学大学院生）

「必然性の“will”と日本国憲法第9条」 谷澤 泰史（東海学園大学非常勤）

「広告英語の特徴について」 長久保礼一（南山中学・高等学校、名古屋大学大学院生）

◆閉会の辞 東海支部長 松倉 信幸（鈴鹿国際大学）

第1回関東支部大会

日時：2008年9月5日（金）

場所：亜細亜大学 2号館226教室

関東支部大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

関東支部大会運営副委員長：石井菊次郎（亜細亜大学非常勤）

関東支部大会運営委員：勝山 裕之（亜細亜大学・青山学院大学非常勤）

プログラム：

◆夏季臨時総会

◆開会の辞 関東支部長 鈴木 繁幸（東京家政大学）

◆研究発表

「変容する Hill District: August Wilson 作 Radio Golf の世界」

伊勢村定雄（駒澤大学非常勤）

「日本人英語学習者のパラグラフ構築の問題点—南山高等学校3年生の課題英作文と Japanese EFL Learner Corpus の比較を通して—」

長久保礼一（南山高等学校男子部・名古屋大学大学院生）

◆閉会の辞 関東支部副支部長 木内 修（東洋大学非常勤）

第19回年次大会

日時：2009年3月14日（土）

場所：東京家政大学 1号館4階（1-4B教室）

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

大会運営委員：仙土真由美（帝京大学大学院博士課程修了）

開催校委員：鈴木 繁幸（東京家政大学）

プログラム：

◆総会

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆ワークショップ 司会 勝山 裕之（青山学院大学非常勤）

「UCL 夏季音声学セミナーの参加報告と Estuary English について」

責任者 長久保礼一（南山高等学校男子部・名古屋大学大学院生）

◆研究発表

「日英語の定性効果」 伊藤 達也（首都大学東京非常勤）

「状態を表す過去分詞形容詞の英和辞典に見られる表記について」

松倉 信幸（鈴鹿国際大学）

「オバマ大統領とケネディ大統領の就任演説の比較分析」

長久保礼一（南山高等学校男子部・名古屋大学大学院生）

「ケンペル『日本誌』における日本語」 土居 峻（名古屋大学大学院生）

◆閉会の辞 副会長 木内 修（東洋大学非常勤）

第2回東海支部大会

日時：2009年9月5日（土）

場所：南山中学・高等学校（男子部）高校校舎2階会議室

東海支部大会運営委員：長久保礼一（南山中学・高等学校）

プログラム：

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆研究発表

「英文の和文翻訳上の問題点—意味変化が発生する場合」

谷澤 泰史（東海学園大学非常勤）

「2009年名古屋大学入試問題の生徒の再現答案からみえる生徒の課題・教師の課題」

長久保礼一（南山中学・高等学校、名古屋大学大学院生）

◆閉会の辞 東海支部長 松倉 信幸（鈴鹿国際大学）

第20回年次大会

日時：2010年3月13日（土）

場所：東洋大学白山第2キャンパス（小石川植物園前） B103教室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

大会運営委員：鈴木 繁幸（東京家政大学） 長久保礼一（南山高等学校男子部）

プログラム：

◆総会

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆記念講演 「広告のプラグマティックス」 副会長 鈴木 繁幸（東京家政大学）

◆ワークショップ 司会 勝山 裕之（青山学院大学非常勤）

「論理を重視した英文読解指導の授業例」

責任者 長久保礼一（南山高等学校男子部・名古屋大学大学院生）

◆研究発表

「King Hedley IIにおける主人公の死について」 伊勢村定雄（駒澤大学非常勤）

「イギリス文化に観る近代競馬」 園部 陽子（東京家政大学大学院生）

「イギリスにおける外国語教育」 矢田 貞行（東海学園大学）

「ヘッドラインに用いられた動作主付き受動文」 松倉 信幸（鈴鹿国際大学）

◆閉会の辞 常任理事 永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

第21回年次大会

日時：2011年3月5日（土）

場所：東京家政大学10号館（図書館棟）3階103K教室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

開催校委員：鈴木 繁幸（東京家政大学）

開催校協力委員：渋谷 和郎（東京家政大学非常勤）

プログラム：

◆総会

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆ケンブリッジ大学Ph.D.取得記念講演

「ケンブリッジのユニークな教育システム」 渋谷 和郎（東京家政大学非常勤）

◆研究発表

「理系学生の英語学習動機：習熟度の異なる学生の比較」 岩本 典子（東洋大学）

「H・メルビル『白鯨』の第一章と現代文学のゆくえ」

時松 賢二（亜細亜大学非常勤）

「スティーヴン・キング作品の世界」 永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

◆閉会の辞 副会長 鈴木 繁幸（東京家政大学）

第22回年次大会

日時：2012年3月3日（土）

場所：亜細亜大学2号館226教室

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

開催校協力委員：勝山 裕之（亜細亜大学・青山学院大学非常勤）

プログラム：

◆総会

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆研究発表

「スティーヴン・キングの『小説作法』を読む」 永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

「headlineにおける表現と関連性理論」 渋谷 優介（東洋大学大学院生）

「辞書の記述と英字新聞の中のway構文」 川崎 修一（日本赤十字看護大学）

「動詞bewareに基づく仮定法現在節・命令文の構造」

野村 忠央（北海道教育大学旭川校）

◆閉会の辞 副会長 鈴木 繁幸（東京家政大学）

第23回年次大会

日時：2013年3月2日（土）

場所：東京家政大学10号館（図書館棟）3階103A教室 受付、総会、シンポジウ

ム、第一会場（英語学） 3階 103K教室 第二会場（英米文学）

大会運営委員長：永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

開催校委員：鈴木 繁幸（東京家政大学）

開催校協力委員：渋沢 優介（東京家政大学非常勤）

プログラム：

◆総会 司会 常任理事 松倉 信幸（鈴鹿国際大学）

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫（浜松学院大学）

◆〈北海道支部設立記念シンポジウム〉「非定形節の諸問題」

司会 野村 忠央（北海道教育大学旭川校）

「非定形節の主語について」講師 野村 忠央（北海道教育大学旭川校）

「to不定詞の時制解釈」講師 菅野 悟（北海道教育大学旭川校）

「*Wager-class verbs*と素性継承：反一致現象としての考察」

講師 三好 暢博（旭川医科大学）

◆研究発表

〈第一会場（英語学） 10号館（図書館棟）3階 103A教室〉

「headlineにおける名詞由来動詞と意味変化」

渋沢 優介（東京家政大学・東洋大学非常勤）

「取り立て助詞のVP-scopeに関する考察」

三好 暢博（旭川医科大学）・戸澤 隆広（北見工業大学）

〈第二会場（英米文学） 10号館（図書館棟）3階 103K教室〉

「オーガスト・ウィルソンの作品で見られるアフリカン・アメリカンの文化と飲食」

伊勢村定雄（駒澤大学非常勤）

「『大尉の人形』のパラドクス」 染谷 昌弘（東洋大学非常勤）

◆閉会の辞 副会長 鈴木 繁幸（東京家政大学）

第1回北海道支部大会

日時：第1日目 2013年8月17日（土） 第2日目 8月18日（日）

場所：北海道教育大学旭川校 一般教育棟P202教室

北海道支部大会運営委員：江本 博昭（旭川医科大学）

菅野 悟（北海道教育大学旭川校）

開催校委員：野村 忠央（北海道教育大学旭川校）

プログラム：

〈第1日目 8月17日（土）〉

◆開会の辞 北海道支部長 野村 忠央（北海道教育大学旭川校）

◆研究発表

司会 菅野 悟（北海道教育大学旭川校）

「英語における縮約関係節の統語論」 戸澤 隆広（北見工業大学）

司会 三好 暢博 (旭川医科大学)

「法助動詞否定の句構造と普遍性について」 野村 忠央 (北海道教育大学旭川校)

◆特別講演 司会 野村 忠央 (北海道教育大学旭川校)

“Organization of Grammar, In-Situ Operator Variable Constructions and Elimination of PF Deletion and LF Copying (along with Many Related Things)”

講師 外池 滋生 (青山学院大学)

〈第2日目 8月18日 (日)〉

◆研究発表

司会 菅野 悟 (北海道教育大学旭川校)

“*Bakari* as a Positive Polarity Item: Anti-licensing and Rescuing”

三好 暢博 (旭川医科大学)

◆北海道支部大会総会 司会 北海道支部幹事 戸澤 隆広 (北見工業大学)

◆研究発表

司会 戸澤 隆広 (北見工業大学)

「言語の変化と言語外の要因」 菅野 悟 (北海道教育大学旭川校)

◆閉会の辞 北海道支部副支部長 三好 暢博 (旭川医科大学)

第24回年次大会

日時：2014年3月3日 (月)

場所：東京外国語大学本郷サテライト 4階教室 受付、総会、記念発表、第一会場 (英語学) 3階教室 第二会場 (英米文学)

大会運営委員長：永谷万里雄 (青山学院大学非常勤)

大会運営委員・年次大会ファシリテーター：松倉 信幸 (鈴鹿国際大学)

◆総会 司会 常任理事 松倉 信幸 (鈴鹿国際大学)

◆開会の辞 会長 藤田 崇夫 (浜松学院大学)

◆名古屋大学博士号取得記念発表 「『オックスフォード英語辞典』及びケンペル著『日本誌』に見られる日本語借用語とその英語への定着」

土居 峻 (愛知工業大学非常勤)

◆研究発表

〈第一会場 (英語学) 4階教室〉

「マラプロビズムの形態論的・意味論的分析」 吉田 明子 (東洋大学大学院生)

「現在完了形の英語史的背景」 橋本 修一 (千葉工業大学)

〈第二会場 (英米文学) 3階教室〉

「St. Mawerにおけるロレンスの社会的観念」 染谷 昌弘 (東洋大学非常勤)

「H. D. ソロー『森の生活』と21世紀のライフスタイル」 時松 賢二 (東洋大学非常勤)

◆閉会の辞 副会長 鈴木 繁幸 (東京家政大学)

第25回記念大会

日時：2015年9月5日（土）

場所：東洋大学白山キャンパス6号館 6317教室 発表会場 6410教室 総会会場、大会事務局 6409教室 一般控室

大会運営委員長：松倉 信幸（鈴鹿大学）

大会運営委員：岩本 典子（東洋大学） 加賀 岳彦（日本女子体育大学）

川崎 修一（日本赤十字看護大学）

開催校委員：鈴木 雅光（東洋大学）

プログラム：

◆総会 司会 理事 女鹿 喜治（桐生大学）

◆開会の辞 会長 渋谷 和郎（千葉工業大学）

◆記念講演 司会 鈴木 繁幸（東京家政大学）

「スイスとロマン派詩人」 顧問 鈴木 雅光（東洋大学）

◆シンポジウム「幼児期の英語指導の課題と実践」 司会 松倉 信幸（鈴鹿大学）

1. 「幼児期の英語指導の課題と実践」 講師 横井 一之（東海学園大学）

2. 「教育のグローバル化と英語教育の在り方」 講師 矢田 貞行（東海学園大学）

3. 「第二言語習得理論の視点から、幼少期の英語教育について考える」

講師 渋谷 和郎（千葉工業大学）

◆研究発表

司会 鈴木 繁幸（東京家政大学）

“Language Policy in Education in Nepal” Birendra Bhaila（東洋大学）

司会 土居 峻（金城学院大学非常勤）

「19世紀の英語語法研究における Horne Tooke と Dean Trench の影響」

吉田 明子（東洋大学大学院生）

司会 女鹿 喜治（桐生大学）

「日本人から見た New Yorker のコミュニケーション—ビジネスと遊びの文化的背景からの考察—」 中山 隆夫（中央医療技術専門学校非常勤）

司会 加賀 岳彦（日本女子体育大学）

「マーギー・プロイス著『ジョン・万次郎 海を渡ったサムライ魂』と明治維新」

永谷万里雄（青山学院大学非常勤）

◆閉会の辞 理事 菅野 悟（北海道教育大学旭川校）

5. 学会誌・学会刊行物総目次・掲載論文一覧

『八王子英文学論叢』No. 1（1990）（印刷：野毛印刷社）

【論文】

ホイットマン鑑賞、「コロンブスの祈り」—母なる愛に抱かれた白鳥の調べ—

I Prayers of Columbus（「コロンブスの祈り」）執筆の意向

山口 英男

II 詩全体の解説と鑑賞 山口 英男
VOICEの情報構造と主題について 松倉 信幸

『八王子英文学論叢』 No. 2 (1991) (印刷:野毛印刷社)

【論 文】

ホイットマン“On the Beach at Night”について—父親としての詩人個人の苦悩と
その子供への愛情— 山口 英男
“Winter Dreams”論—「夢」と「幻想」— 中山 隆夫
前位用法の-ed形容詞 松倉 信幸

『八王子英文学論叢』 No. 3 (1992) (印刷:野毛印刷社)

【論 文】

ホイットマン研究 adhesive loveと人間相互の結合—Calamus詩群をめぐって— 山口 英男
鳥籠からのメッセージ—『キャスターブリッジの市長』への一つの鍵— 引地 俊彦
反リアリズム小説再考—ブラック・ユーモアの文学— 永谷万里雄
『荒地』に関する一考察 高橋 富男
詩篇‘Neutral Tones’の解釈 高橋 富男
受動不定詞の構造 松倉 信幸
最小対(英語)—異音(日本語)その聞き取りに於ける一考察 鈴木 繁幸
Communicative Competence in Identifying Subjects in Japanese Sentences
Shigeyuki Suzuki (鈴木 繁幸)

『八王子英文学論叢』 No. 4 (1993) (印刷:野毛印刷社)

【論 文】

カート・ヴォネガット試論—愚かなる人間への警告— 永谷万里雄
トマス・ハーディの「詩の世界」 高橋 富男
航空業界に於けるFrequent Flyer Programとその用語に関する一考察 鈴木 繁幸

『八王子英文学論叢』 No. 5 (1994) (印刷:野毛印刷社)

【論 文】

ニュー・ライティングズの諸相—解放と多様な実験— 永谷万里雄
R. S. トマスの訳詩 高橋 富男
Read-and-Look-Up Method for Japanese Learners of English
—暗誦法による英語教授法— 石井菊次郎

『八王子英文学論叢』 No. 6 (1995) (印刷:昇進企画)

【論文】

- トマス・ピンチョンの世界 永谷万里雄
『緋文字』におけるパールについての一考察 新堀 孝
詩篇‘Channel Firing’について 高橋 富男
M. G. ルイス『修道僧』試論—邪まな愛— 別府 結花
『詩学』を通して眺めたジョイスの『ユリシーズ』の構成について 吉田 宏予
価値評価副詞の機能と共起制限について 松倉 信幸
中国語の状語と英語の副詞句の比較 陸 鳳琦
日米両国英字新聞第1面で使用される技法についての一考察 鈴木 繁幸

Contradictory Input and Null Subject in a Child L2 Grammar of English

Mami Ozeki (尾関 麻美)

『八王子英文学論叢』 No. 7 (1996) (印刷:昇進企画)

【論文】

- ジョン・バース『山羊少年ジャイルズ』—まったく新しい可能性の創出— 永谷万里雄
『ユリシーズ』の序章としての『若い芸術家の肖像』 吉田 宏予
『フランケンシュタイン、すなわち現代のプロメテウス』解説へのアプローチ
—知と人を求めて 別府 結花
『めざめ』における家父長制 岩本 典子
口語英語における“kind of”表現: アメリカのトークショーからの一考察 尾関 麻美
発話行為の副詞 松倉 信幸

『八王子英文学論叢』 No. 8 (1997) (印刷:スバルグラフィック)

【論文】

- レイト・ポストモダニズム論考—ポール・オースターを中心として— 永谷万里雄
憑かれた人間の悲劇—ナサニエル・ホーソーン「痣」について— 新堀 孝
An Essay on *Franny and Zooey*—What is Zen Buddhism for Salinger?—
Takao Nakayama (中山 隆夫)
美との邂逅—徐志摩のマンフィールド観をめぐって— 新堀 司
『ジーン・プロウディ先生の最盛期』におけるスパークの人物像の特質について
の一研究 吉田 宏予
ジョイスの描写の節度というものについて
—ブルームはなぜ妻の行動を黙認しているのか?— 吉田 宏予
『ミドルマーチ』におけるジョージ・エリオットの結婚観 岩本 典子
英語の掲示・表示に見る日本語からのトランスファー—データ分析を中心に 尾関 麻美

言語による性差別の一研究

鈴木 繁幸

『八王子英文学論叢』 No. 9 (1998) (印刷: スバルグラフィック)

【論文】

コンピュータ時代のフィクションに関する一考察

—ギブスンの『ニューロマンサー』を中心に—

永谷万里雄

An Essay on “A Perfect Day for Bananafish” — What does the death of Seymour mean?—

Takao Nakayama (中山 隆夫)

罗塞蒂の「歌」—徐志摩の訳詩考—

新堀 司

ダロウェイ夫人と「女らしさ」の枠組み

岩本 典子

A Study on Perceived Strategy Use — Focusing on Students' Reading and Listening Strategy Use

Akiko Kochiyama (河内山晶子)

A Study on English Language Lessons Using Global Issues as Teaching Content

Akiko Kochiyama (河内山晶子)

Non-Nominative Subjects and Root Infinitives in the Bilingual First Language Acquisition of English and Japanese

Yuko Ito (伊東 優子)

英語と中国語の否定の比較

陸 鳳瑛

Acquisition of Argument Structures by L1/L2 Learners of English

Mami Ozeki (尾関 麻美)

永谷万里雄・松倉信幸・鈴木繁幸編 (2000) 『英米の言語と文学』(桜門書房)(八王子英文学研究会 10周年記念刊行物)

第1章 講座 Language and Communication

I. Intercultural Communication

Nobuyuki Matsukura (松倉 信幸)

II. Language and Gender

Mami Ozeki (尾関 麻美)

III. 時事英語

鈴木 繁幸

第2章 講座 American Literature

I. 小説を読む—19世紀アメリカ作家の作品を例に—

新堀 孝

II. American Literature and the Dream

Mario Nagatani (永谷万里雄)

第3章 講座 English Literature

I. イギリス文学への序章

新堀 司

II. A Brief History of the English Novel

Hiroyo Yoshida (吉田 宏子)

第4章 発展論究

I. Situational Activities for Learners' Motivation Akiko Kochiyama (河内山晶子)

II. Discourse Connective *which*

Takao Fujita (藤田 崇夫)

III. Subjective Case Marking in young children's English Yuko Ito (伊東 優子)

IV. Asの語義とその用法の多義性: 意味成分の分析と多義性の展開 木内 修

- V. スタインベックにおける「母性」 清水 和子
VI. ヘミングウェイの「インディアン部落」—独創と主題に関する一考察— 別府 結花
VII. 主題としてのジェンダー—『嵐が丘』研究— 岩本 典子

『日本英語英文学』 No. 11 (2001) (印刷: スバルグラフィック)

【論文】

- 文芸作品としての「フォレスト・ガンブ」 鈴木 繁幸
アルファベット音による英語の発音と綴りの関係—アルファベット26文字の音
及び発音記号を使って英語の発音と綴りの関係を分析する能力を高めるため
の一考案— (英語学習初心者・中学生対象) 石井菊次郎
Teaching Metaphor with Visuals—A Lesson Plan for Teaching Metaphor
to ESL Learners by Using Pictures— Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
E-mailを利用した英語教育—東洋大学工学部/オレゴン州立大学 (日本語クラス)
の例— 吉田 宏予
女性と家—イギリス小説と映画—『分別と多感』『ハワーズ・エンド』『ダロウェ
イ夫人』— 吉田 宏予
The Death of the Death of the Novel—The Making of a Post-Contemporary
American Fiction— Mario Nagatani (永谷万里雄)

『日本英語英文学』 No. 12 (2002) (印刷: スバルグラフィック)

【論文】

- Ranges of Meaning: A Comparison of Japanese Post-positions and English
Prepositions through Error Analysis—TEFL Foundation for Advanced
Studies on International Development Tokyo, Japan Christopher A. Hoskins
同時多発テロの新聞報道に見る米国の多様性に関する一考察 鈴木 繁幸
英語教授法と最近の脳の機能の発見との関連性に関する一考察
—文法・訳読式教授法(The Grammar-Translation Method)にある英文を分析す
る能力(文法力)に、英語の音を分析する能力を学習者に習得させ、この二つ
の内的基準を基盤として運用する二つの英語学習・習得Technique (Real and
Look-UpとShadowing)を加えた英語学習・習得法、またこの方法による授業
および英語学習者自信による学習・習得(自宅学習)等を最近の能の機能の発
見に関連させた一考察— 石井菊次郎
否定の意味と機能 松倉 信幸
穆旦のソネット—「智慧の来臨」をめぐって 新堀 司
“Cat in the Rain”解説—猫とアメリカ人の妻に関する一考察 別府 結花
The Life of Fiction Mario Nagatani (永谷万里雄)

『日本英語英文学』 No. 13 (2003) (印刷: スバルグラフィック)

【論文】

- She whatted her whats? 藤田 崇夫
Logical-Semantic Analysis of *Rather* Osamu Kiuchi (木内 修)
Investigation of “transfer strategy” and constraints on transfer in the case
of Japanese of English as a foreign language Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
Donald Barthelme’s Bringing Chaos to Order Mario Nagatani (永谷万里雄)

『日本英語英文学』 No. 14 (2004) (印刷: スバルグラフィック)

【論文】

- 述語動詞制約に関する機能論的解決: 二重目的語構文の場合 木内 修
脳科学の観点からの Shadowing および Read-and-Look up による授業の一提案
石井菊次郎
『オハイオ州ワインズバーグ』を読む (1) 「神性」(4部構成の物語) について 新堀 孝
Steinbeck on Man and Nature: A Philosophical Reflection
Mario Nagatani (永谷万里雄)

『日本英語英文学』 No. 15 (2005) (印刷: スバルグラフィック)

【論文】

- On の多義性: 認知意味論の英語教育への貢献 木内 修
【書評論文】長谷川欣佑著『生成文法の方法 英語統語論のしくみ』研究社、
2003年12月、A5版 viii + 301 pp. 野村 忠央
Motivational Change of Japanese Learners of English: Study of Students
at Tottori University of Environmental Studies Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
憲法9条成立に至る過程と語法一起草者の心理状態と法助動詞— 谷澤 泰史
【事例調査報告】会話英作文の授業内容としての 妥当性と学生の受容度について
新堀 孝
To the Lighthouse: A Deliberate Complexity of Symbolism
Masami Sato (佐藤まさみ)

【研究ノート】

- Interlanguage Errors both from a Primary Language and Developmental Substitutions
Yasushi Tanizawa (谷澤 泰史)

永谷万里雄・清水和子・仙土真由美・松倉信幸・鈴木繁幸・木内修編 (2006) 『言語と文学の饗宴: 岡田春馬先生帝京大学名誉教授就任記念論文集』(DTP出版)
お礼のことば
文学研究(者)

岡田春馬略歴

序

【論文】

1. アメリカ文学

- How Green Was John Steinbeck? Mario Nagatani (永谷万里雄)
「スタインベック・カントリー」の中国人 清水 和子
オー・ヘンリーの「最後の一葉」を読む 仙土真由美
“The Masque of the Red Death”における色彩効果 水戸 俊介

2. イギリス文学

- キャサリン・マンスフィールド「人形の家」 石橋 和代
「キリマンジャロの雪」—Harryの死に関する一考察 別府 結花
英国人の価値観Decencyの功罪—William Somerset Maughamの作品とOED
及びBNCの例文との比較— 矢野 剛
William Empson's Alice and his Pastoral 深山 美樹

3. 英語学

- 二重目的語構文再訪: 認知意味論の観点から 木内 修
英単語と英語表現について—コミュニケーションの観点から— 新堀 孝
映画を使った英語教育—Lilo and Stitchを使って— 名倉 秀人
AS構文の定義化と憲法草案—マッカーサーノートを源泉に— 谷澤 泰史
事件・被害を報じるヘッドラインの受動態—過去分詞の形態と機能—
松倉 信幸
マイナーな見出し語にも光を—学習英和辞書点検— 藤田 崇夫

4. 英語教育学

- 英字新聞記事見出しによる隠喩表現の分類について 鈴木 繁幸
英語の音をいかに表記して学習させるべきか—より英語の音に近いカタカナ
表記によるのがいいのか、又はAlphabetおよび日本語を利用した発音記号
の紹介がよいのか— 石井菊次郎
The potential of qualitative research in the field of L2 learning motivation
Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
Contrastive Rhetoric: Relationship between Reception and Production
Noriko Iwamoto (岩本 典子)
A Comparison of Reading Preference between American ESL and Japanese EFL
Classroom Hidekazu Iwamoto (岩本 英和)

『日本英語英文学』No. 16 (2006) (印刷:DTP出版)

【論文】

- 品詞別英和辞典の必要性 藤田 崇夫

- 日英語における二重目的語構文の統語構造について 勝山 裕之
 受動態におけるトピックと行為者 谷澤 泰史
 Adverbial Quantifiers Tatsuya Ito (伊藤 達也)
 New Approaches to L2 Learning Motivation Research Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
 Japanese University Students' Receptive and Productive Skills of English Essays
 Noriko Iwamoto (岩本 典子)
 Whether Adult L2 Learners Have Access to the UG Principle: The Difference
 between Japanese Quantifiers and English Quantifiers
 Hidekazu Iwamoto (岩本 英和)

【研究ノート】

- 翻訳上の態の転換の必要性 谷澤 泰史

『日本英語英文学』 No. 17 (2007) (印刷: DTP 出版)

【論文】

- 単純現在時制: 認知意味論的接近 木内 修
 英和辞典における感情を表す過去分詞形容詞の表記 松倉 信幸
 社会契約説が日本国憲法に与えた影響—政治思想と言語表現— 谷澤 泰史
 Japanese Conversational Styles: Direct Speech and Indirect Speech
 Hidekazu Iwamoto (岩本 英和)
 Is Self-Assessment Possible?: Japanese Students' Self-Assessment in their
 Course Work Noriko Iwamoto (岩本 典子)
 Orientations of Motivated and Less Motivated EFL Learners: A Study of Japanese
 University Students Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
 発音記号による英語の音声の学習・習得: 「やる気」の秘訣 石井菊次郎
 『オハイオ州ワインズバーグオハイオ』を読む(2) — 「て」、「紙礫」について—
 新堀 孝
In Our Time—第十章解説 別府 結花
 Literature as Virtual Reality Mario Nagatani (永谷万里雄)

『日本英語英文学』 No. 18 (2008) (印刷: 英光社 (会員))

【論文】

- Changes of Motivational Intensity in Learning a Foreign Language
 —A Study of University Students in Japan Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
 英字新聞ヘッドラインで使用されるレトリックについて—スポーツ欄を考える
 鈴木 繁幸
 談話標識 you know—認知語用論的接近 木内 修
 The Naturalising Process of Japanese Loanwords in *the Oxford English Dictionary*

Schun Doi (土居 峻)

Japanese Communication—Undeveloped Verbal Skills

Kiyotaka Ichishima (市島 清貴)

法助動詞 will の「必然性」と日本国憲法第9条

谷澤 泰史

Bare Nouns in Japanese and Korean

Tatsuya Ito (伊藤 達也)

『日本英語英文学』 No. 19 (2009) (印刷: DTP 出版)

【論文】

Japanese University Students' Attitudes toward English Speaking Situations

Noriko Iwamoto (岩本 典子)

芦田修正が憲法第9条第1項に与えた影響—言語の視点から— 谷澤 泰史

情報構造から観るヘッドラインに用いられた発表・発見および調査の意味の

受動態

松倉 信幸

主題展開は文中のどの部分に適用されるのか

女鹿 喜治

The Poe's Last Year—His final days as mysterious as much of his writing—

Mario Nagatani (永谷万里雄)

藤田崇夫・鈴木繁幸・松倉信幸編 (2010) 『英語と英語教育の眺望』 (DTP 出版) (日本英語英文学会 20 周年記念刊行物)

序文 編者

【論文】

第1章 英語教育と英米の教育

The Use of Debate in English Writing Class

Noriko Iwamoto (岩本 典子)

Motivational Influences Affecting the Development of L2 Motivation of Japanese

Learners of English

Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)

「実用英語教育」偏向への批判的考察

奥井 裕

幼児期における言葉獲得のフィールドワークより—アメリカ、中国、日本の

幼稚園・保育園での活動—

横井 一之

英国の外国語教育政策—初等学校における外国語必修化の動向— 矢田 貞行

第2章 ことばと言語表現

Japanese Loanwords in the *Oxford English Dictionary* and in the English version

of *Kämpfer's the History of Japan*

Schun Doi (土居 峻)

リア王の文体

西田 義和

「しゃれ」・「だじゃれ」と Pun に関する一考察

鈴木 繁幸

法文書における法助動詞“shall”と“will”の選択—英文憲法と英文契約書の表

現効力—

谷澤 泰史

第3章 統語論と語法

不定名詞の作用域	伊藤 達也
文末焦点と文末重点から見た背景型・連続型の関係詞節 albeit再考	女鹿 喜治
状態を表す過去分詞形容詞の英和辞典に見られる表記	藤田 崇夫
“government of the people”の解釈について	松倉 信幸
結果構文とTime-away構文の位置づけ	野村 忠央
	阿部 明子

第4章 アメリカ文学とイギリス文学

作品世界の全知の神になれなかったホーソーニーイーサン・ブランドと赦さ ざる罪について—	新堀 孝
Contemporary Fiction: Postmodern Gothic	Mario Nagatani (永谷万里雄)
<i>The Old Man and the Sea</i> とJoe DiMaggioの関係に関する一考察	別府 結花
ロマン派詩人とアルプス	鈴木 雅光

執筆者一覧

『日本英語英文学』 No. 21 (2011) (印刷: DTP出版)

【論文】

誤用について	鈴木 雅光
N・ホーソーンの『緋文字』とアメリカ文化	時松 賢二
Writing Fearlessly: Theoretical Discourses around Paula Vogel and her Plays	Mao Naito (内藤 麻緒)
Motivation to Learn English: A Comparison of Engineering Major Students with Two Different Levels of English Proficiency	Noriko Iwamoto (岩本 典子)

『日本英語英文学』 No. 22 (2012) (印刷: DTP出版)

【特別寄稿】

『源氏物語』の翻訳について	松永 巖
【論文】	
『恋する女たち』における「創造的生」の可能性	染谷 昌弘
法助動詞単義分析再考—根源的用法と認知的用法—	野村 忠央
品詞転換の解釈プロセスと関連性理論	渋沢 優介
Syntactic Finiteness of Subjunctive Clauses	Satoru Kanno and Tadao Nomura (菅野 悟・野村 忠央)

『日本英語英文学』 No. 23 (2013) (印刷: DTP出版 (賛助会員))

【特別寄稿】

Non-Movement Analysis of Operator Variable Constructions and Its Consequences	
---	--

Shigeo Tonoike (外池 滋生)

【論文】

- カズオ・イシグロの『わたしたちが孤児だったころ』の意味するもの
—バンクスが語らないものと比喩の解釈を中心に— 武富 利亜
日本の英語学界—現状、課題、未来 野村 忠央

A Note on the Japanese Focus Particle *Bakari*

- Nobuhiro Miyoshi and Takahiro Tozawa (三好 暢博・戸澤 隆広)
文法訳読は本当に「使えない」のか? 杉山 幸子

【研究ノート】

- 動詞-不変化詞表現 *talk one's head off* で使用される動詞について 長井みゆき

『日本英語英文学』No. 24 (2014) (印刷:DTP出版(賛助会員))

謝辞

【論文】

- 英語の不定詞演算詞節について 西前 明
マラプロピズムの形態的・語彙的分析 吉田 明子
国際化・グローバル化時代における日本の言語教育についての考察 宮崎 幸子
サミュエル・ダニエルの『ディーリア』における数のシンボリズム 大木 富
D. H. Lawrence の社会的観念と「他者」 染谷 昌弘
監獄の犠牲者としてのオスカー・ワイルド 本間 里美

渋谷和郎・野村忠央・土居峻編 (2015) 『英語と文学、教育の視座』(DTP出版(賛助会員))(日本英語英文学会25周年記念刊行物)

- 「日本英語英文学会」設立25周年を迎えて 渋谷 和郎
編集委員会からの謝辞に代えて 野村 忠央

第I部 英米文学 (English and American Literature)

- 【論文】 Shakespeare の *Sonnets* における数秘構造 大木 富
【論文】 サマセット・モーム「アリとキリギリス」試論—英文学研究に於ける
精読の重要性 奥井 裕
【論文】 *Daughters of the Vicar* と脱構築 染谷 昌弘
【論文】 カズオ・イシグロの *The Unconsoled* にあらわれる「誤解」と「切斷」
の考察 武富 利亜
【論文】 Longing for Oneness/Wholeness in Ukiyo: The Floating World in *The Long
Christmas Ride Home* Mao Naito (内藤 麻緒)
【論文】 サム・ハンナ・ベルと『十二月の花嫁』—アルスターへの眼差し
中村 仁美
【論文】 The “Crusade” as a Metaphor for the Anti-Civilization Movement in

- Thoreau's "Walking" Nanoka Hayashi (林 南乃加)
- 【論文】 "The Porter" とブルマン・ポーター労働運動 本荘 忠大
- 【論文】 ワイルドと消費 本間 里美
- 第II部 英語教育学 (English Education)
- 【論文】 中学校における英語教育で生成文法が果たす役割—中学2年生を対象とした実践 茨木正志郎・久米 祐介
- 【論文】 Writing on Board or Paper?: Students' Attitudes toward Electronic Bulletin Board Activity Noriko Iwamoto (岩本 典子)
- 【論文】 The Developmental Processes and Patterns of Japanese Students' Motivation for Learning English Kazuro Shibuya (渋谷 和郎)
- 【論文】 日本人英語学習者の自尊感情を高めるために—基盤となる尺度の作成 安田 利典
- 【研究ノート】 グローバル化と教育改革 矢田 貞行
- 【論文】 時制の一致の教授に関する一考察 山田 七恵
- 【論文】 幼児期の英語教育について—早期教育、幼小連携から考える 横井 一之
- 第III部 英語学 (English Linguistics)
- 【論文】 英語の結果構文における「程度」読み解釈に関する一考察 阿部 明子
- 【論文】 素性共有と主語の位置に関して 菅野 悟
- 【論文】 派生名詞句とその項 佐藤 亮輔
- 【論文】 規範的言語観と文法 洪沢 優介
- 【論文】 形容詞のように使われる過去分詞—fallen leavesを出発点として 土居 峻
- 【論文】 本当に2種類のtoが存在するのか?—制御タイプのtoと繰り上げタイプのto 野村 忠央
- 【論文】 文法学習の重要性について 藤田 崇夫
- 【研究ノート】 There受動文の史的発達に関して 本多 尚子
- 【論文】 英語の存在文の文法性と定性制約について—一定名詞句の統語構造からの再考 増富 和浩
- 【論文】 Somethingの意味と機能 松倉 信幸
- 第IV部 学会25年の歩み
- 祝辞—学会回顧に代えて 永谷万里雄
- 「日本英語英文学会」25周年、おめでとうございます。 鈴木 繁幸
- 日本英語英文学会 学会資料 野村 忠央
- 執筆者一覧